

「ふかわ子ども食堂」の定例活動を見学しました。



広島市安佐北区のプラザ Hot One にて、毎月第4日曜日に活動されている「ふかわ子ども食堂」を、9月24日（日）に見学しました。

この活動は、ご家庭を元気に、子どもたちを笑顔にすることを目的とし 2019 年に開始、フードロス食品の無料提供やお弁当の安価提供、遊びの提供による子どもたちの居場所づくりに加えて、子育て世代の保護者の方の精神的支援に取り組まれているものです。開催場所は、広い厨房がある企業の社員食堂で、広くゆったりと落ち着けるソファやテーブルがある空間。「笑顔の縁」をスローガンに「和の心」「利他の心」を大切に会社経営をしておられた同企業の先代オーナーとの出会いにより、それまで思い描いていた子ども食堂開設の夢が実現したそうです。

11:30 の食堂オープンに向け、9:00 に準備開始。この日は、12 世帯の来場者用に、13 名のボランティアの方々が、食事の準備や会場づくりを忙しくも和気あいあいと楽しそうに取り組んでおられました。中には初参加の男性ボランティアも。食材にはハロウィーンにちなんだカボチャが登場。硬いかボチャは力のある男性陣が担当。あっという間に小さく切りそろえられていました。



この日のメニューは初挑戦のホットサンドにサラダやかぼちゃのコロッケやスープ、白和えなど栄養満点の料理が続々と並びます。

オープンすると、参加者が次々と来場。受付後、楽しそうに会話しながら食事を楽しんでいました。食後は、工作やシャボン玉アート、ハロウィーンの衣装を着たり、自分で衣装を作ったり、また、バドミントンやボランティアとして初参加されたサッカー指導者とのボールけりなど、子どもたちは思い思いの時間を過ごしていました。楽しそうにしている子どもを遠目に見守っている保護者の笑顔が印象的でした。



受付で元気に“トリック オア トリート！お菓子をいただきます”

食事が一段落した頃、保護者はボランティアに子育てに関する相談をされたり参加者同士で情報交換したり有意義な時間を過ごしておられました。また、シャボン玉アートに参加していたお子さんの保護者が、手形足形アートを教えておられるとのことで、次回のアクティビティに早速加える計画ができるなど、繋がりが拡大していることを実感しました。

参加者からは「何度も利用しています。食事もおいしく、遊ぶこともできるので子どもたちも楽しみにしています」「コーンかと思ったらカボチャのスープだった。甘くておいしい！」など、またボランティアからは、「保護者の方も毎日忙しくしておられるので、ここに来たときは、ゆっくりして欲しい」「“家では食べない野菜をここに来たら食べるのよ”との声を聴くと嬉しく、やりがいを感じます」などのお声がありました。

人と人が繋がり支え合う、優しい社会の広がりを感じる一日でした。 (本郷)

